

受付番号

27

許可番号

大歯医倫 第 111122 号

研究課題名

介護施設の歯科の関わり の現状と新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 予防対策の実態調査

研究責任者

糸田 昌隆

申請者

近田 紀子

研究終了日

2021 年 3 月 31 日

所属

医療保健学部
口腔保健学科

所属

医療保健学研究科
口腔科学専攻

職名

教授

職名

修士課程 2 年生

申請の概要

介護老人保健施設は要介護高齢者の自立を支援し在宅復帰を目指して、医療と介護を繋ぎ、看護やリハビリテーション等を担う施設である。平成 30 年 4 月より改正された「口腔衛生管理加算」等は、介護保健施設入所者の口腔アセスメントと口腔ケアプランニングを行い、質の高い口腔健康管理を行う目的で、歯科衛生士との強固な連携が必要となっている。またこれら口腔ケアマネジメントを実施することで、入所者の歯科治療の必要性和ニーズを治療に結びつけられる機会も増加する。

松阪市や多気郡管内では、平成 13 年より口腔ケアステーションが設立され訪問歯科診療や口腔衛生管理が積極的に取り組まれている地域であるが、管内でも歯科との連携意識の差により、各施設での取り組みや口腔への意識の差があると考えられる地域である。

本研究では、介護老人保健施設運営者に施設概要や訪問歯科診療受け入れの有無等をアンケート調査し、また看護師や

介護士などの口腔ケア実務者には口腔ケア業務の取り組み方等を調査する。近年の要介護高齢者の増加に伴い、介護老人保健施設が不足している。そのため新しい受け皿として整備されたサービス付き高齢者向け住宅は、介護を必要とする新しい支援の場として注目されているため、介護老人保健施設と同様にサービス付き高齢者向け住宅運営者と口腔ケア実務者に調査を実施し施設サービスの違いによる影響も検証することにより、今後の施設における歯科の効率かつ効果的な介入の一助になると考える。

介護施設への訪問歯科の介入も年間 4,000 名を超し連携施設が増えつつあった中、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防対策として訪問歯科診療や口腔ケアが制限されることを多く経験した。確かにこの感染症は感染力が強く、高齢者では致死率も高いため恐れるべき対象であるが、必要なサービスを控えることで生じる影響も懸念した。訪問歯科診療や口腔ケアが制限された場合の入所者への影響等についてもアンケート調査をすることで、新型コロナウイルス感染症が流行している状況下においても歯科との連携の必要性が実証されることが期待される。